

FRB(米連邦準備制度理事会)は2024年9月17~18日に開催されたFOMC(米連邦公開市場委員会)で、政策金利(FFレートの誘導目標)を0.5%ポイント引き下げました。引き下げ幅はおおむね予想通りで、米長期金利と米ドル(対円)はわずかな上昇という反応でした。今回の利下げで、FRBは2024年11月、12月の利下げをそれほど焦らなくてもよくなった、0.25%ポイント程度の連続利下げ、あるいは12月のみの0.5%ポイントの利下げでも良くなった、といった見方が市場で強まっています。つまり、FRBが最初の利下げを大幅に、しかも市場の期待に合わせて決定したことで、今後の金利、為替、株式市場のふれ幅は小さくなると予想できます。これまでになくFRBの動きが予想できないFOMCとなりましたが、結果として市場の期待に寄り添う政策変更となりました。FRBとしては今後利下げを継続するでしょうから、早めに市場の期待に合わせることで、市場の催促を追いかける形になることを避けたいとみたのでしょう。

また、FRBは、会合参加者の今後の政策金利推

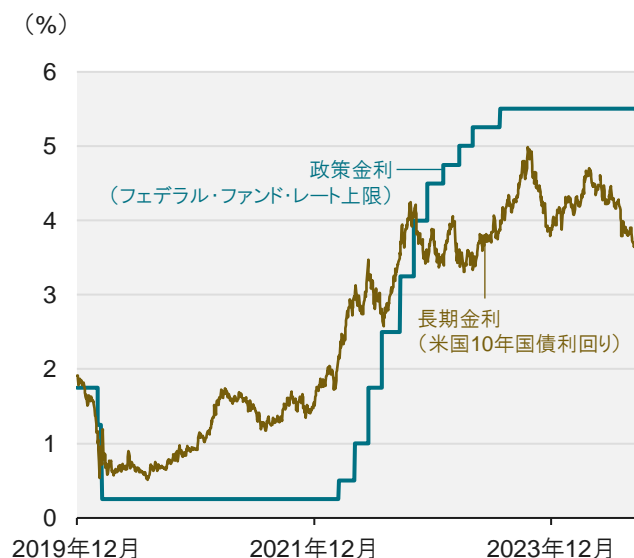
移予想を示すことで、利下げのペースを2024年末までにあと0.5%ポイント程度、その後四半期ごとに0.25%ポイント程度ずつという機械的な引き下げの道筋を示しています。ただし、今回の0.5%ポイントの引き下げで、必要に応じてそのペースを変えることもうまく市場に伝えてきました。

今年7月頃まで4%台であった米国の長期金利(10年国債利回り)は、足元では3%台に低下しており、FRBのこれからの利下げをかなり織り込んだとみえています。米ドル(対円)も同様に、来年まで140円台前半を中心に推移するとみえています。

円高に弱いと思われている日本株ですが、米国の利下げが早くて大きいほどに、ソフトランディング(低めの成長率だが、マイナス成長ではない)の可能性が高まり、日本企業の輸出数量が安定し、結果として設備投資や求人が安定することで、リーマンショック以来のデフレ的な状態からの脱却がさらに確かになると思われます。国内産業や中小型を中心に日本株式市場の為替離れが始まるとみえています。

[米国の政策金利・長期金利の推移]

(2019年12月末~2024年9月18日)



[米ドル(対円)レートの推移]

(2023年12月末~2024年9月18日)



信頼できると判断した情報に基づき、日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。